KYOKUTO

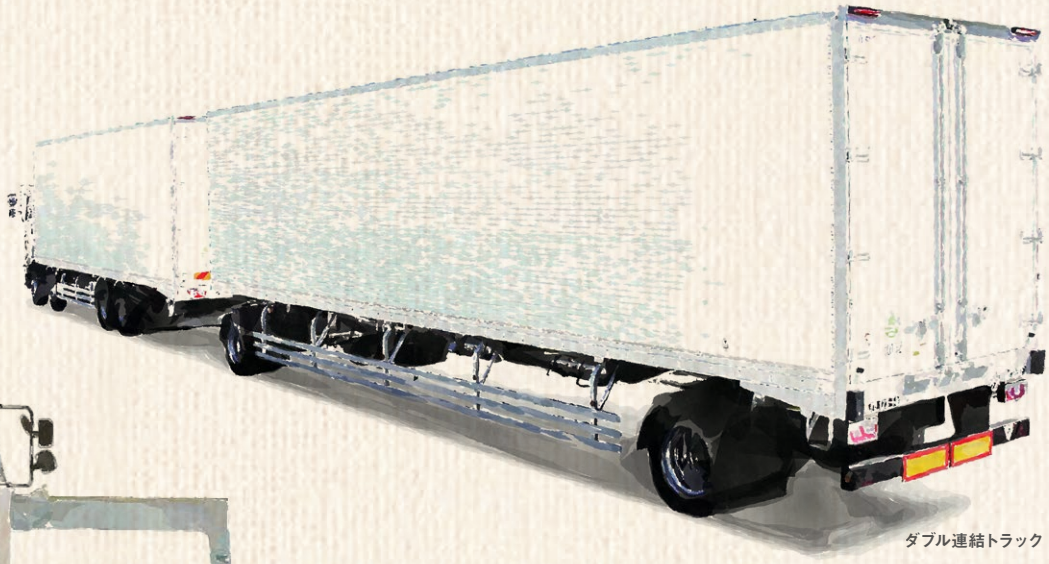
プレスパック®

小口配送ローリ

2019 CSR REPORT

極東開発グループ CSR報告書

ピストンクリート®



ダブル連結トラック

ジェットパック® セミトレーラ（エアレーション式）

WORKING FOR ALL CREATE THE FUTURE

ジェットパック®(エアスライド式)

はたらく自動車が未来を創る

人々の日常を支え、環境の基盤をつくり、街を暮らしやすくする。
国内をはじめ、世界規模で社会のインフラ整備に向けて取り組んできた私たちは、いま、その事業活動によるSDGsの達成と持続可能な社会の実現に注力し、これを全社的な重要課題として掲げています。
様々な技術や製品により、あらゆる場面で人々の暮らしを支える。
極東開発グループはその実績を活かし、これからも皆様に貢献する“はたらきもの”として社会の未来を創り続けてまいります。

ハイパースイング・フックロール®

「変化に柔軟に適応できる、
グローバルな企業へ」

○ 編集方針

本報告書では持続可能な社会の実現に向けた、極東開発グループの取り組みを今後の計画とともに報告しています。

○ 報告範囲

対象組織：極東開発工業株式会社を中心に国内外の関係会社を含めて極東開発グループの活動を報告しています。
対象期間：2018年4月1日 ～ 2019年3月31日
（一部記事には2019年4月以降の内容を掲載しています。）
対象読者：極東開発グループに関わる全てのステークホルダーの皆様
発行日：2019年9月

CONTENTS —— コンテンツ

トップメッセージ2019 03
極東開発グループとSDGs 05

① NOW AND THE FUTURE 06
中期経営計画2019-21 ～To the Growth Cycle～ 07
有識者対談 09
2018年度トピックス 12
セグメント別実績 13

② お客様、お取引先様とともに 15
顧客満足向上に向けて 16
エシカルなものづくり 17
お取引先様との関係づくり 17

③ 従業員とともに 18
雇用状況 19
多様な人材活用 19
働きがいのある職場づくり 21
こころとからだの健康づくり 22

④ 環境への取り組み 23
脱炭素社会に向けて 24
循環型社会に向けて 26

⑤ 地域社会とともに 27
地域の課題解決 28
地域への参画 29
次世代の育成 30

⑥ コーポレートガバナンス 31
内部統制システム 32

⑦ 財務情報 33

関係会社情報 34

“持続可能なものづくり”を追求していくことが私たちの使命です。

トップメッセージ 2019

TOP MESSAGE 2019

KYOKUTO

2019年9月
極東開発工業株式会社
代表取締役社長

高橋和也

プレスパック®

事業を取り巻く環境

極東開発工業の本社がある関西地域では、2025年の万博開催に向けて社会全体がにわかに動き出しています。これから様々な分野で具体的な動きが出てくるでしょう。しかし、日本社会全体でみると、依然として問題は山積しており、解消の目処すら立っていない状況です。当社グループと直接関わるところでは、物流における人材不足の問題があります。また、高度経済成長期に集中的に整備された道路や橋梁といった社会資本が、これから急速に寿命を迎える問題もあります。少子高齢化や働き方改革など働き手に関する多くの課題を抱えながらこれら様々な問題を解決していくためには、私たちもさらなる成長を遂げていく必要があります。

中期経営計画 2019-2021 ～To the Growth Cycle～ をスタート

そんな中、当社グループは2022年3月期を最終年度とする新3ヵ年の中期経営計画2019-2021 ～To the Growth Cycle～ をスタートさせました。これまでの中期経営計画では、東京オリンピック・パラリンピックに関する工事などまとまった需要はあるものの、先行き不透明な国内市場において引き続き成長し続けるための強固な収益基盤の確立に力点を置いてきました。新たな中期経営計画ではその真価を発揮していきます。また、ニーズがめまぐるしく変化するこれからの時代にあってさらなる飛躍をするために、柔軟でスピード感のある組織体制づくりにも取り組みます。私たちの技術やノウハウは国内だけに留まるものではありません。今後も引き続きアジアを中心にグローバルな展開にも力を注いでいきます。

社会の一員としての責任あるものづくり

SDGsという言葉が社会全体に定着してきています。当社グループにおいても事業活動の中に17のゴールを織り込むことでグローバルな視点と未来志向を取り入れつつあります。当社グループは従来から3つの中核事業（特装車、環境、不動産賃貸等）を通して様々な社会課題の解決に取り組んできました。これからは、それらの活動の中に自社だけでなくライフサイクルやバリューチェーンの視点を取り入れることが求められています。特に働き方改革にもあるように、従業員をはじめサプライチェーン上の安全衛生や働きがいといった人権課題、また製品ユーザーへの安全配慮といったことも“持続可能なものづくり”を実現する上で重要になってきます。

持続的に成長し、広く選ばれるKYOKUTOへ

地球規模の大きな課題としては、気候変動の問題もあります。西日本を中心に多くの被害をもたらした「平成30年7月豪雨」は記憶に新しいところです。この災害は私たちに、経済活動が自然環境に大きな影響を与えていることを改めて実感させ、その対応が喫緊の課題であることを再認識させました。

私たちメーカーをはじめ経済界は、これまで物質的な豊かさを追求し、便利で快適な社会を創りあげました。しかしその一方で、多くの負担を地球に強いてきたことは最近の異常気象や頻発する災害発生に見てとれます。これまで培ってきた様々な知見と技術を広く世界に普及させ、世界中の人々が豊かで安全に暮らせる社会、かつ地球上の全ての自然や生き物にとっても優しい社会の実現を目指していきます。そのためにも、広く社会から選ばれるKYOKUTOであり続けることが私たちの使命です。

○極東開発グループとSDGs

極東開発グループはSDGsに取り組んでいます。

SDGsは全世界があらゆる社会課題の解決に取り組み、「誰ひとり取り残さない世界」を実現させるための17個の目標です。当社グループはSDGsの達成に向け、社会の一員として積極的に役割と責任を果たしていきます。

重要課題

社会課題の解決につながる当社グループの取り組みを、バリューチェーンに沿って特定しました。事業を通じてこれらに重点的に取り組むことで、SDGsの達成と持続可能な社会の実現に大きく貢献していきます。

○パートナーシップ

様々な企業や行政、諸団体との連携をすすめ情報交換や協業を通じ課題解決に取り組んでいます。

国連グローバル・コンパクト（UNGC）

国連グローバル・コンパクト（UNGC）

2016年11月、極東開発工業は国連グローバル・コンパクト（UNGC）に署名しました。UNGCの分科会では、CSRに関わる最新動向や各社の取り組み事例の共有、企業のCSR推進を支援するツールの制作などに取り組んでいます。国連が求める「人権」「労働」「環境」「腐敗」に関わる10の行動原則を実践し、国際社会の一員として役割を果たしていきます。

かながわSDGsパートナー 認定式の様子

かながわSDGsパートナー

2019年4月、極東開発工業は「かながわSDGsパートナー」に認定されました。神奈川県や県内企業、団体と連携しSDGsの普及啓発活動やSDGsを通じた新規ビジネスの構築などにつなげていきます。

NPO法人 こども環境活動支援協会

兵庫県西宮市において持続可能な社会の実現に向けた教育モデルを開発し、実践している「NPO法人 こども環境活動支援協会」を2016年11月から支援しています。

TO THE GROWTH CYCLE

— 中期経営計画 2019-21 —
～To the Growth Cycle～

三転ダンプ

深あおりダンプ

1
NOW AND THE FUTURE

— 中期経営計画 2019-21 —
～To the Growth Cycle～

タンクトレーラ

極東開発グループは2022年3月期を最終年度とする、新中期経営計画 2019-21 ～To the Growth Cycle～を策定しました。

前中期経営計画2016-2018 ～Value up to the Next～ では、物流・環境系製品の受注確保、ストックビジネス・海外事業の拡大等の施策に取り組み、グループ業績目標のうち売上目標は達成することができました。しかし売上構成の変化や原材料価格の上昇、固定費の高止まりなどの影響により、利益率は低下し営業利益目標は達成することができませんでした。

これらの課題を踏まえつつ、「変化に柔軟に適応できる、グローバルな企業」への成長に向けて、新たな3ヵ年計画を策定しました。

○基本方針と施策

パワーゲートセンター

3つの基本方針に基づき、具体的な施策に取り組んでいきます。

1. 生産性の向上と利益体質の強化

①設備投資効果の最大化

・自動溶接ロボットの運用

・新パワーゲートセンターの運用　など

②IoT、AIの活用で高付加価値・高品質な製品・サービスの提供

・サービス支援システム（K-DaSS）の運用

・スマートデバイス・音声認識の活用　など

2. 将来の収益源の創出

①海外事業の収益基盤確立

・新規海外専用機種の開発

・販売店の増設　など

インド工場での製造の様子

2019年1月に完成したバイオガスプラント

②グループの強みを活かせる新分野の事業確立

・林業分野

・バイオエネルギー分野

・鉄道車両分野　など

3. 企業品質の向上と社会的価値の深化

①働き方改革と従業員育成

・IoT、AIを活用した業務効率化

・働き方改革 社内プロジェクトの運営

・多様な人材の活用　など

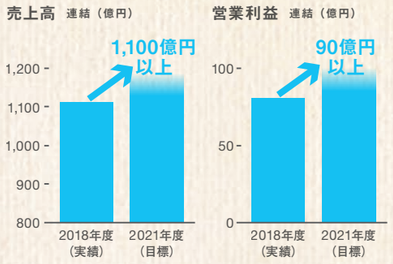
②事業を通じた社会課題の解決

・［人手不足解消］積載量の向上、省力化製品の提供による輸送作業の効率化

・［脱炭素・循環型社会の実現］環境事業の推進、製品の省エネ化・電力化、再生可能エネルギー発電事業

・［ものづくりの伝承］工場見学会の開催、持続可能な調達の推進、技能検定の実施　など

○財務目標



最終年度となる2021年度は前年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの反動もあり、日本経済は一時的にやや停滞するものと予想されます。

当社グループの主軸である特装車事業の市場は、リニア中央新幹線など大規模インフラ工事はあるものの、排ガス規制による駆け込み需要の反動や物流系製品のピークアウトなどの影響でやや厳しい環境になると想定されます。

海外市場では、主なターゲットであるアジア圏は中長期的に内需主導で経済成長が続く見通しですが、中国経済の減速や各国の政治状況などのリスクがあり、先行きの不透明感を増しています。

厳しい市場環境が予想される中、3つの基本方針を確実に実行することで目標達成を目指します。

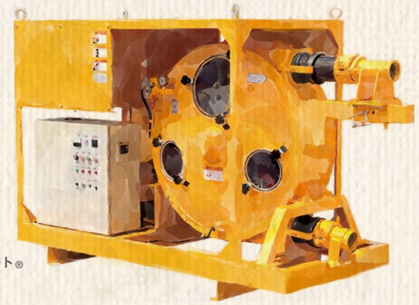
CONVERSATION WITH EXPERTS

有識者対談

フラトップ® zero Ⅱ

スライドダンプ

1
NOW AND THE FUTURE
— 有識者対談 —



定置式スクイーズクリート®

当社グループでは、これからの3年間で目指すべき方向性を定めた新たな中期経営計画（以下、「中計」）「To the Growth Cycle」を策定しました※1。

今回は社会課題を専門に扱う有識者として、近畿大学経営学部の中谷常二教授をお招きし、極東開発工業株式会社 代表取締役社長の髙橋和也と対談を行い、中計を中心に当社グループの取り組みについてご意見をいただきました。

生産性をあげ、利益体質を強化する

髙橋：前回の中計では社会の変化に対応できる組織づくりを目指し、将来に向けた収益基盤の強化に尽力しました。今年度から始まった新たな中計では、これまで行ってきた設備や人材、システムなどへの投資に対する効果を出すことを考えています。

中谷：これまで投資してきた分の回収をしっかり行うということですね。

髙橋：そうです。たとえば設備に関しては、昨年名古屋工場に「新パワーゲートセンター」をつくりました。これまでパワーゲートの受注が多い時期には連日の残業のみならず休日出勤で対応しなくてはいけませんでした。しかし、新パワーゲートセンターができたことで、従来の繁忙期の約3割増の受注に対して残業なしで対応できるようになりました。

中谷常二　プロフィール
近畿大学経営学部教授。人事院公務員研修所客員教授。専門はビジネス倫理。主著に『ビジネス倫理学』、『ビジネス倫理学読本』がある。企業や行政機関に対して倫理的に正しいふるまいをうながす提言や研修を多数行っている。

中谷：生産性が向上することで、従業員のワーク・ライフ・バランスにも貢献できた事例になると思います。パワーゲートの受注は、最近は増加の傾向にあるのでしょうか。

髙橋：パワーゲートとは車両の後部に取り付ける昇降機で、荷物の積み下ろしにおけるドライバーの負担を減らす省力化装置です。近年、物流や運輸業界では人手不足が深刻で、女性や高齢者など多様なドライバーの雇用が求められています。そのような社会的な背景もあり、作業における身体的負担を軽減するパワーゲートのような装置の需要は増えています。

中谷：働きやすい職場づくりの観点からすると、パワーゲートは物流業界に不可欠な製品ですね。

髙橋：当社グループの基幹事業のひとつである特装車は、もともと衛生環境改善や人手不足解消などを目的につくられました。そのような観点からみると、当社グループの製品を製造販売することは社会課題の解決を目指したものといえます。

新たな収益源をつくる

中谷：製品情報を拝見しても、社会課題解決に直結するものをたくさんつくられていることがよくわかります。新たな分野への参入などは予定されているのでしょうか。

髙橋：7年ほど前から研究をすすめてきて、新たに2018年度から林業分野における特装車や製品の製造販売を始めました※2。

中谷：林業分野における特装車や製品とはどのようなものなのでしょうか。

髙橋：森林を保全するためには適切な頻度での間伐が必要ですが、その際大量の間伐材が生まれます。間伐材は木質ペレットの形でバイオマス発電の燃料として活用することができます。従来、この木質ペレットを貯蔵するためのサイロへ移し替える作業には高所作業が伴いました。高所の作業ということもあり、はしごの上り下りを伴う重労働かつ危険な作業でした。当社グループの新製品「JETCUBE（ジェットキューブ）」は空気の力で木質ペレットを搬送するため、作業負担を減らし作業員の安全性も確保できます。また作業の効率化にも貢献しています。

中谷：最近は大雨に伴う土砂災害など自然災害が増えています。その背景には放置林の問題があるといわれ、国も森林資源の活用などに力をいれようとしていますが、林業従事者が少なく間伐など森の手入れが十分にできていない現状があります。このような製品の開発を通じて人手不足の課題に取り組んでいることは、里山の再生と災害に強い街づくりに貢献しているといえるでしょう。

海外における課題解決

中谷：少し話は変わりますが、6月に大阪で開催されたG20では海洋プラスチックごみの問題が主要テーマとして取り上げられました。今後ごみ問題への対応は世界的なムーブメントになると予想されています。貴グループではこれまでにもリサイクル施設やごみ収集車の製造販売など、ごみの問題については積極的に取り組まれています。

髙橋：当社グループでは衛生環境が整備されていない開発途上国へごみ収集車の提供と使い方の指導なども行っています。この取り組みを通じて「ごみはごみ箱へ捨て、それをごみ収集車が回収し、施設で分別をすることでリサイクルにつなげる」といったごみ処理の基礎となる仕組みづくりを当社グループの製品をもって広げています。

中谷：製品を使用した海外での課題解決は、貴グループがこれまで培った技術やノウハウがあるからこそ取り組めるものです。今後も積み上げてきたものを活用し、世界の様々な課題解決に貢献していただくことを期待します。このほかにも海外への取り組みはありますか。

髙橋：2014年にインドネシアの首都ジャカルタに立体駐車場のデモ機を置きました。ジャカルタをはじめアジアの主要都市では自動車が爆発的に増えており、駐車場所や交通事故の問題が多発しています。立体駐車場を導入することで、その課題の解決につなげるのが目的です。

中谷：80年代までは日本でも舗装されていない道路や路上駐車がたくさん見受けられました。

極東開発工業株式会社 代表取締役社長 髙橋和也

髙橋：そうですね。日本では法律で「建築物の新増設の際に駐車場施設を設置する義務」が定められてから、路上駐車が激減し、交通事故も大幅に減りました。

中谷：交通課題を抱える地域に立体駐車場を普及させることで、「車を駐車場に停める」という文化を広め定着させ、安全で効率的な街づくりに貢献されているといえます。

誰もがやりがいを持てる職場づくり

中谷：従業員の職場環境についてはどのような配慮をされているのでしょうか。

髙橋：当社グループでは従業員の安全は全てに優先すると考えています。特に繁忙期には、おもわぬ労働災害が起こりがちです。そのようなときでも従業員の安全を確保し事故を減らすために、2017年度から労働安全に関する専門部署「安全推進部」を設置しました。また労働災害の衝撃を模擬的に体感できる装置を使った「安全体感教育」を関係会社も含め、全従業員に実施しました※3。工場内で使っている設備と同様の装置をつくることで、従業員に切実な問題として労働災害のおそろしさを学習してもらっています。

— 有識者対談 —

グランデッカー®

中谷：自社の設備と同じ状況で疑似体験できるというのは、従業員の方々にとって有意義な学びにもなるとてもユニークな取り組みといえます。

髙橋：これからは外国人や女性など様々な方に工場での作業に携わっていただく時代です。新たに入社された方にも当社グループの安全衛生に対する考えを周知し、安全で衛生的に作業ができるようすすめていきます。

中谷：少子高齢化や働き手不足に対応するためには、多様な人材の活用が不可欠です。そのためには誰もが働きやすく、自分らしくやりがいを持って働ける職場づくりがどの企業にも求められる時代になってきました。貴グループでは障がい者雇用にも積極的に取り組んでおられるとお聞きしました。

髙橋：2018年5月から「きょくとう柏ファーム」という障がい者の方を雇用する農園を開設しました※4。ここで採れた野菜は当社グループの食堂で食材として提供しています。このような取り組みを通じてダイバーシティの観点から、当社グループで働く誰もが「極東開発グループの一員」という認識を持って働きがいを感じてもらえるような環境づくりを目指しています。

中谷：それは従業員の方々の働きがいとしても、とても大切なことだといえます。SDGsにおきましても働きがいや多様な人材の活用に関する目標がありますが、これまでの話を聞いていても貴グループが従業員を非常に大切にしておられる組織だと伝わってきました。

ものづくりでSDGsの達成に貢献

髙橋：当社グループはSDGsが採択される以前から、製品やサービスを通じての社会課題の解決に取り組んできました。SDGsという世界共通の目標ができた今、私たちはこれまで業務として行ってきたことを継続するとともに、SDGsに照らしてさらに貢献できることはないか検討し続ける必要があると考えています。

中谷：SDGsの達成につながる製品をつくることは、従業員の会社への帰属意識の向上につながります。また、顧客の立場からもSDGsの達成につながる製品は貴グループの信用度をあげていくでしょう。

髙橋：従業員自身が自分の仕事と社会課題の解決がどのようにつながっているのかを理解してもらうために、社内教育や広報媒体にもSDGsの記事を掲載しています。

中谷：従業員の方々がSDGsを意識して社会課題を解決する製品をつくろうと志すようになると、おのずと会社内にイノベーションが生まれるきっかけとなります。これからも引き続き社会課題の解決に向けて、従業員をはじめ様々なステークホルダーと協力しあいながら、社会から求められるものづくりをすすめていただきたいと思います。

髙橋：当社グループの従業員には誇りと自信を持って、今後も全ての人々が豊かに暮らせる持続可能な社会の実現に向けて尽力してほしいと考えています。本日は誠にありがとうございました。

※1　中期経営計画…P.7～P.8に掲載
※2　林業関連製品…P.12に掲載
※3　安全体感教育…P.22に掲載
※4　きょくとう柏ファーム…P.20に掲載

2018 TOPICS

— 2018年度トピックス —

ハイパースイング・フックロール®

リヤダンプ（耐摩耗鋼板仕様）

JETCUBEは木質ペレットを貯蔵用サイロに空気で搬送するため、従来の危険で身体的負担の大きい高所作業がなくなり、安全な作業環境を実現しました。

林業分野へのチャレンジ

13 気候変動に具体的な対策を

地球温暖化が深刻化しています。原因となる温室効果ガスを削減するため、再生可能エネルギー（太陽光・風力・バイオマスなど）の活用が求められています。

極東開発工業は新たな分野として林業関連製品の開発に取り組み、2018年11月よりその第一弾として「JETCUBE（ジェットキューブ）」の販売を開始しました。JETCUBEは、バイオマス発電などの燃料として利用される木質ペレットをより安全かつ効率的に搬送・積み下ろしすることを可能にし、木質ペレットの利用促進とそれによる脱炭素社会の実現に貢献します。

K-DaSSは「サービスツールシステム」「リアルタイムデータ収集」「Webサービス」の3つの要素で構成されており、お客様とIoTを通じて情報で「つながる」ことを目指しています。

IoTで「つながる特装車」の実現へ

12 つくる責任 つかう責任

お客様に長く安全に製品を使用していただき、合理的なライフサイクルを実現することを目的に、IoT基盤を利用したサービス支援システム「K-DaSS」を開発しました。

K-DaSSは特装車の稼働データをサーバーに記録・蓄積すると同時に、修理や整備などのアフターサービスを行うサービスマンやお客様にデータをリアルタイムで共有するシステムです。

K-DaSSの導入によって車両の状態をより正確に把握することが可能となり、お客様に適切なメンテナンス提案と製品提供ができるようになりました。

北陸重機工業のディーゼル機関車

鉄道車両分野への参入

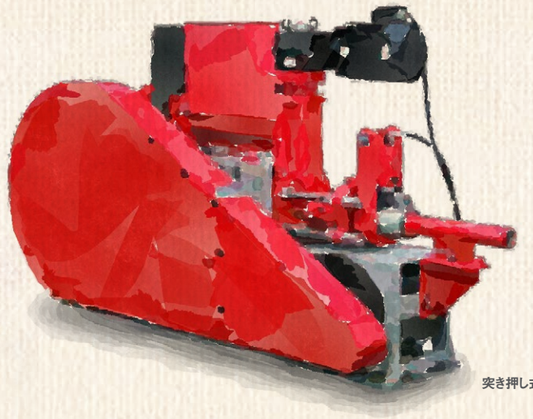
11 住み続けられるまちづくりを

2018年5月、ディーゼル機関車や軌道モーターカーなどの鉄道車両の製造販売を行う「北陸重機工業株式会社」を完全子会社化しました。北陸重機工業をグループ化することで、アジア・アフリカなどの開発途上国における、都市部の急速な人口増加にともなう交通課題の解決に貢献していきます。

ACHIEVEMENT BY SEGMENT

湿塩散布車

— セグメント別実績 —


突き押し式成形機

○特装車事業

建設、物流・省力、環境という日常のあらゆるシーンで活躍する特装車（はたらく自動車）を製造販売しています。

特装車事業 業績 連結（単位：百万円）

市場環境

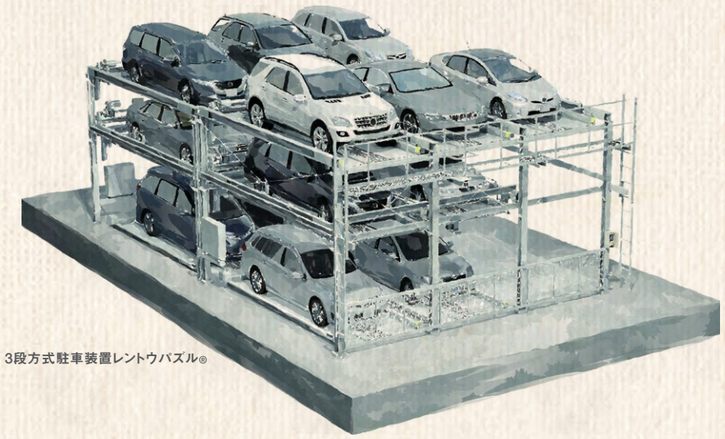
これまで活況を呈していた市場環境は落ち着き、2018年度は堅調に推移しました。
しかし、物流業界においては依然としてドライバー不足の問題が大きく、車両の大型化や荷役運搬の省力化などさらなる合理化に向けた取り組みが期待されています。建設分野では、道路や橋梁などの社会インフラの老朽化や自然災害の課題があり、対応が求められます。
海外においては、開発途上国を中心に当社グループの技術を必要としている国がまだ多くある状況です。

2018年度トピックス

- 2018年11月から、木質ペレットエア搬送ユニット「JETCUBE（ジェットキューブ）」を発売し、林業分野に参入しました。
- 2018年5月、北陸重機工業株式会社を完全子会社化し、鉄道車両分野に参入しました。
- 路面凍結によるスリップ事故を防ぐための凍結防止剤を散布する「湿塩散布車」を開発し、2018年12月から販売を開始しました。
- 特装車の稼働データを記録・蓄積する、IoT基盤を利用したサービス支援システム「K-DaSS」を開発しました。
- 「4tリヤダンプ（耐摩耗鋼板仕様）」が「2018年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

評価されたポイント
- スチフナ（補強骨組み）のないすっきりとした美しい外観
- 大幅な軽量化と強度の向上を同時に実現

— セグメント別実績 —


3段方式駐車装置レントウパズル®

○環境事業

粗大ごみ処理施設、リサイクルセンター、バイオガスプラントなどの各種リサイクル施設及び設備の製造販売、メンテナンス、運転の受託などを行っています。

環境事業 業績 連結（単位：百万円）

市場環境

脱炭素化やSDGsの達成に向けた取り組みとして、循環型社会の形成に大きな期待が寄せられています。中でも地域資源を活用した取り組みが注目されており、家畜ふん尿、食品廃棄物などをエネルギー源とした廃棄物エネルギーを使っての地域課題の解決や地域活性化に向けた動きがあります。

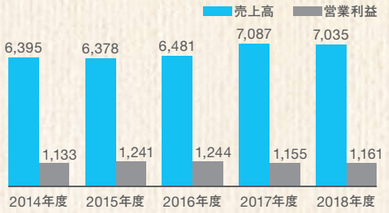
2018年度トピックス

- 2019年1月、北海道豊浦町から受注していたバイオガスプラント第一号施設が完成しました。
- 2019年3月、茨城県つくば市から受注していたリサイクルセンターが完成しました。

○不動産賃貸等事業

マンション向け立体駐車装置の製造・据付・販売・メンテナンス、コインパーキングの運営、不動産の賃貸などを行っています。

不動産賃貸等事業 業績 連結（単位：百万円）



市場環境

2008年のリーマンショック以降、マンションを含む住宅供給戸数は低調に推移しており、立体駐車装置の新規需要もそれに伴った状況が続いています。一方、既存の立体駐車装置の老朽化に伴うリニューアルやメンテナンスの需要は継続的に見込まれています。

2018年度トピックス

- 堺市内の各区役所及び斎場の駐車場運営管理を受託しました。

② WITH OUR BUSINESS PARTNERS

— お客様・お取引先様とともに —

② WITH OUR BUSINESS PARTNERS

— お客様・お取引先様とともに —

大型清掃ダンプ（天蓋付）

○顧客満足向上に向けて

お客様のニーズに応える製品・サービスを提供するため、従業員の教育やアフターサービスの充実など様々な取り組みをすすめています。

12 つくる責任 つかう責任

2019年2月に実施された「溶接技能検定 全社大会」では、練習の成果を出せ1位をとることができてとても嬉しかったです。日頃から、板厚によって電流や電圧の調整をすることに特に気を配り溶接作業をしています。
今後もさらなる溶接技術の向上を目指し、自分が持っている溶接技術、知識を伝えて後継者の育成や技能伝承に励みます。

極東開発工業株式会社 福岡工場第一製造課
伊藤 隼人さん

溶接技能検定 全社大会の表彰式の様子
（前列右から3番目:伊藤さん）

サービス講習会 開催実績（極東開発工業単体）

395件

指定修理工場向け講習会：103回
お客様向け講習会：251回
意見交換会：41回

技能講習会・技能検定

製品の品質向上と技能伝承を目的に、従業員を対象とした各種業務に必要な技術の講習会や検定を実施しています。

サービス講習会

製品の修理やメンテナンスなどのアフターサービスに関する講習会を、お客様と指定修理工場を対象に開催しています。講習の内容は大きく「取り扱い」「安全」「製品技術」に分けられます。

メンテナンスパック

極東開発工業では、製品使用中に発生する突然の故障やトラブルを未然に防止するため、定期点検や整備などを定額で行うサービス「メンテナンスパック」をお客様に提供しています。
2017年度からはさらに内容を充実させた「パーフェクトメンテナンスパック」の販売を開始しています。

品質マネジメントシステムの運用

日本トレクスでは2000年度から品質マネジメントシステム（ISO9001）の認証を取得し、マネジメントシステムを運用しています。
極東開発工業においても2019年3月、横浜工場にてISO9001の認証を取得しました。
今後はその他拠点・関係会社でも認証取得をすすめ、製品・サービス・業務の品質を高めるための取り組みをすすめていきます。

2

WITH OUR BUSINESS PARTNERS

— お客様・お取引先様とともに —

ジェットパック®
セミトレーラ（エアレーション式）

○エシカルなものづくり

環境や人権に配慮した責任ある製品づくりに取り組んでいます。

12 つくる責任 つかう責任

SOC free

SOCフリーのマーク
カドミウム・鉛・水銀及び六価クロムの削減を
実現した製品に付けられます。

化学物質の管理

SOC（カドミウム・鉛・水銀・六価クロム）を使用しない、自然環境に配慮した製品づくりをすすめています。SOCフリーの製品については、製品カタログやパンフレットにマークを付けて表示しています。

紛争鉱物の排除

紛争地域における人権侵害や環境破壊、不正採掘などの原因、さらには武装勢力の資金源となる紛争鉱物（すず、タンタル、タングステン、金）を原材料に使用しない製品づくりをすすめています。

○お取引先様との関係づくり

お取引先様との信頼関係と協力関係を大切にし、両社の持続可能な発展につながるより良い関係づくりをすすめています。

17 パートナーシップで目標を達成しよう

情報交換会

各工場において定期的にお取引先様との情報交換会を開催しています。情報交換会では、当社グループを取り巻く情勢の変化や生産に関する情報などについて情報提供を行っています。またお取引先様からのご意見やご要望についても意見交換を実施しています。

定期調査

公正に取引を行うために年1回、取引実績、信用状況、経営内容、技術水準などについてお取引先様の調査を実施しています。

当社は三木工場の操業開始時から社内協力工場として極東開発工業の生産に協力しています。仕事において常に意識しているのは私たちの仕事の先にあるお客様のことです。お客様に安全で効率よく使っていただけるかどうかは私たちのものづくりにかかっているといえます。これからも責任と誇りをもって仕事に取り組んでいこうと思います。

株式会社白川鉄工所
代表取締役社長
白川 裕加司さん

3

WITH OUR EMPLOYEES

— 従業員とともに —

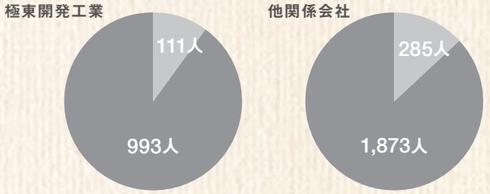
PTO式 散水車

バンセミトレーラ（PANECT）

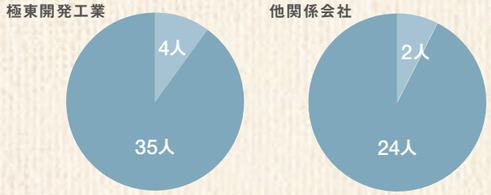
○雇用状況

当社グループでは、3,262人の従業員が働いています。
（2019年3月末時点）

従業員数 ●男性 ●女性



新卒採用者数 ●男性 ●女性



※1 正社員・契約社員・パート社員の合計人数。
※2 出向者は出向先に含む。
※3 兼務役員、管理職含む。

○多様な人材活用

従業員が互いの個性や価値観を尊重し、多様性を活かしてイキイキと働ける職場づくりをすすめています。

外国人技能実習生の作業風景

外国人技能実習生の受け入れ

極東開発工業では、各工場において外国人技能実習生を受け入れています。実習生がものづくりの技術や伝統を学び、母国に持ち帰ることで開発途上国の経済発展に貢献しています。

外国人技能実習生数 **44人**

大型フックロール®

きょくとう柏ファームではほうれん草、ブロッコリー、ベビーリーフ、ラディッシュなど季節ごとにたくさんの野菜を育てています。ビニールハウスで作業をしているのでとても暑かったり、水撒きに使うじょうろが少し重かったりと大変ですが、休憩を取りながらみんなで毎日頑張っています。これからも色んな種類の野菜をつくっていきたいです。

きょくとう柏ファーム
鎌井 哲さん

きょくとう柏ファームの様子（右：鎌井さん）

障がい者雇用の促進

当社グループでは障がい者雇用を積極的にすすめています。
2018年5月には、障がい者の方が長期的に自分らしく働ける職場づくりを目指して千葉県柏市に「きょくとう柏ファーム」を開設しました。

障がい者雇用人数 **48人**

ワーク・ライフ・バランスの実現

仕事と仕事以外の生活を自分の理想とするバランスで両立させる「ワーク・ライフ・バランス」を実現するため、育児や介護などに関する諸制度を整え、一人ひとりがやりがいを持って働ける職場づくりをすすめています。

育休取得者数 **20人**（うち男性1人）

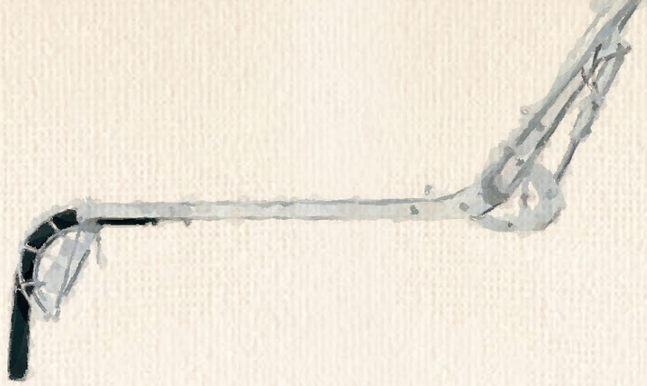
有休取得平均日数 **9.1日**※

※海外拠点は、制度が異なるため実績に含んでいません。

日本トレクス株式会社 ウイング設計課 **湯浅 淳**さん

産後の妻をサポートするために1カ月半ほど育休を取得しました。
申請も問題なく許可されましたし周りの同僚たちも快く送り出してくれ、男性社員でも育休を取りやすい環境だと感じました。
育休中は3人の子どもと妻の面倒と家事を一挙に引き受けました。家事自体初心者だった私は毎日ヘトヘトでしたが、妻をサポートでき、子どもたちと接する良い機会となったので取得して本当に良かったと感じています。
職場復帰した後は妻が心配でしたが、残業時間を減らし、サポートが必要な時は早めに帰るようにしているため、毎日充実した生活が送れています。

大型ダンプ



3
WITH OUR EMPLOYEES
— 従業員とともに —

スクイーズクリート®

○ 働きがいのある職場づくり

従業員の成長と役割自覚、やりがい・働きがいを形成する人事制度や研修、表彰制度などを運用しています。

新入社員研修の様子

2018年度 社長表彰チーム賞を受賞した
ハイパースイング・フックロール® プロジェクトチーム

社長表彰 表彰式の様子

人事制度

従業員一人ひとりが、自身に求められる期待や役割を自発的に果たせる人材に成長できるよう、人事制度を運用しています。極東開発工業では2018年度、「仕事を通じた価値創造ができる人材育成」と「社員がやりがい・働きがいを実感できる制度」をコンセプトに人事制度を改定しました。また、従業員自身のキャリア形成の意向や希望などを申告する機会を定期的に設けています。

能力開発制度

勤務年数や役職に合わせて職務に必要なスキルを身につける「階層別研修」と、職業人生における今後のキャリア形成を支援する「キャリア研修」を実施し、従業員が自ら能力開発していく基盤づくりをサポートしています。従業員の能力とモチベーション向上を目的に「自己啓発通信教育制度」や「資格取得奨励金制度」などを設け、費用の全額負担や奨励金の支給なども行っています。

従業員表彰制度

当社グループでは毎年、会社の発展に大きく貢献した従業員を対象に様々な表彰を行っています。
業績貢献や業務効率の改善、発明、技能継承、サービス品質や安全衛生への貢献など様々な分野での表彰を、グループ各社だけでなく協力会社の従業員も含めて実施しています。

従業員意識調査

極東開発工業では2019年1月、全従業員を対象に働き方に関する意識調査のアンケートを実施しました（回収率93.2%）。仕事のムダ削減やワーク・ライフ・バランスの実現に向けての意見など、多数の意見が寄せられました。調査結果を踏まえ、働き方改革の社内プロジェクトで対応を検討し実行につなげています。

○ こころとからだの健康づくり

従業員全員が長く健康に働き続けられるよう健康経営に向けた取り組みをすすめています。

安全パトロールの様子

協力会社を含めた全ての従業員に、安全体感教育を受講していただきました。この教育では危険に対する意識を高め、労働災害を未然に防ぐことを目指しています。受講後のアンケートでは「疑似体験ではあったが怖さを身体で覚えられ、体感することにより咄嗟の判断に役立てることができる教育内容であった」と評価をいただいております。この教育を続けて不安全行動の抑制を図ります。また各工場で安全パトロールを実施し、指摘項目を速やかに是正することで危険ゼロ職場の構築をすすめていきます。

極東開発工業株式会社　安全推進部
浦野 匡史さん

安全体感教育の様子（左:浦野さん）

労働安全衛生

各拠点において安全教育や安全パトロールなどを実施し、無事故・無災害を目指した取り組みをすすめています。
2018年度から極東開発工業と日本トレクスでは、疑似災害を体感できる装置を用いた「安全体感教育」を協力会社含め全従業員に実施しました。また極東開発工業では「安全推進部」を立ち上げ、労働災害を未然に防ぐ取り組みを強化しています。

労働災害発生件数　47件
（前年比73.4%）

からだの健康

従業員の健康をサポートするために、極東開発健康保険組合と協同し各種セミナーやウォーキングキャンペーンを実施しています。
福利厚生として、提携スポーツクラブの法人価格での利用も推進しています。

こころの健康

ストレスチェックや面談を行い、メンタルヘルス不調を発生させない職場づくりをすすめています。万が一、従業員がメンタルヘルス不調を発症した際には、専門機関と連携して医療職との面談を重ねながら、職場復帰のためのフォローを行っています。
また、法令違反や不正行為など、職場の倫理違反に関する通報・相談窓口として「企業倫理ヘルプライン」を設置しています。匿名性を確保し、相談者が不利益を被らないフォロー体制を整備して運用しています。
管理職に対しては、専門の講師を招いて「ハラスメント研修」を開催し、誰もが働きやすい職場づくりに向けた啓発をすすめています。

4 ENVIRONMENTAL ACTIVITIES

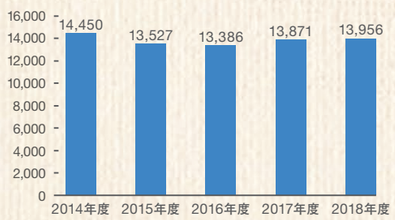
— 環境への取り組み —

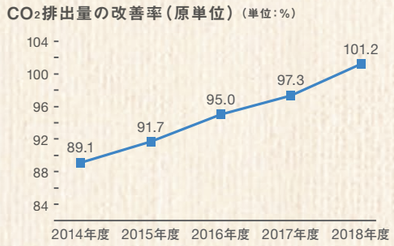
移動式破砕機

○脱炭素社会に向けて

施設内照明のLED化、省エネ機器の導入、社用車への次世代車両の導入、太陽光発電の実施など温室効果ガスの削減に取り組んでいます。
今後は生産工程を含めた業務効率の改善に重点的に取り組み、事業活動全体での脱炭素化を目指します。

エネルギー使用によるCO_2排出量の推移 極東開発工業単体





カセットバッテリ式EV塵芥車

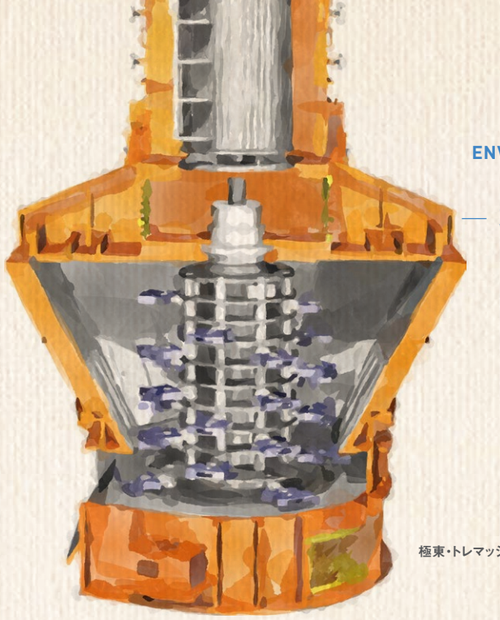
生産設備・工程における省エネ

照明のLED化や老朽化設備の更新など生産工程での省エネをすすめています。
2018年5月には極東開発工業の名古屋工場 塗装工場内のLED天井照明が、一般社団法人照明学会から優秀照明施設として「東海支部奨励賞」を受賞しました。

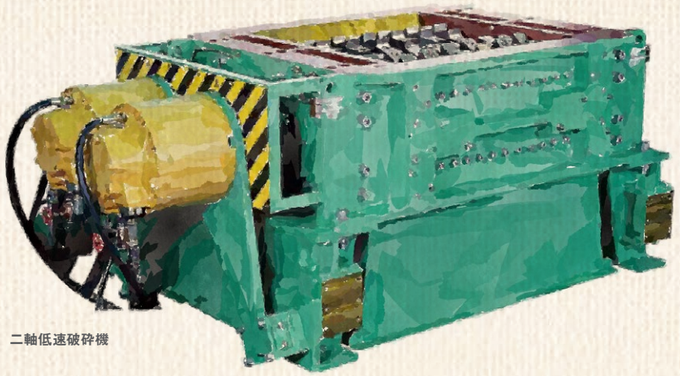
評価されたポイント
・消費電力を56.9%削減
・タブレットを使用して無線で適正な明るさに調整可能

製品における省エネ

従来製品の効率アップだけでなく、動力を電気に変えることで温室効果ガスを排出しない製品づくりをすすめています。
2018年度、極東開発工業では複数社の共同プロジェクトとして「カセットバッテリ式EV塵芥車」を開発しました。走行と積み込みを電力化することで、CO_2排出量削減に貢献しています。また使用するカセットバッテリの充電に利用する電力は、自らが回収したごみを熱源とした発電によるもので「エネルギー循環型ごみ収集システム」を実現しています。

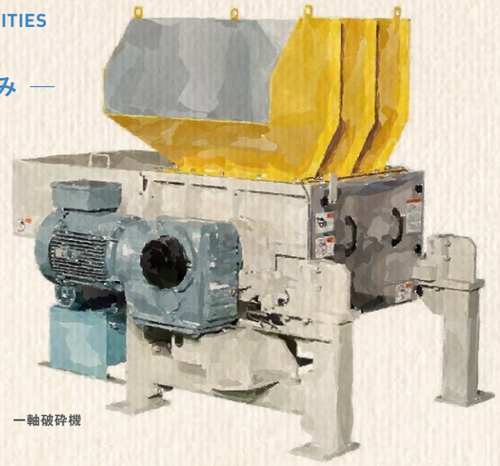


極東・トレマッシェ◎破砕機



二軸低速破砕機

4
ENVIRONMENTAL ACTIVITIES
— 環境への取り組み —



一軸破砕機

27トン改良アオリ型（ジャバラ型）フェリーシャーシ

福岡工場敷地内の太陽光発電パネル

物流効率の改善による省エネ

日本トレクスは丸吉運輸機工、他2社と「27トン改良アオリ型（ジャバラ型）フェリーシャーシ」を共同開発しました。その車両を活用した海上輸送の取り組みが認められ、2018年12月に「グリーン物流パートナーシップ会議」の国交省物流審議官表彰を受賞しました。
この賞は、物流分野でのCO_2排出量削減や生産性向上において特に顕著な功績をあげた事業者に授与されます。

評価されたポイント

・積載量拡大による、輸送効率の改善とドライバー不足の解消
・扱いやすいジャバラ型の幌の導入による、作業軽減と安全性・生産性の向上

再生可能エネルギー発電

極東開発工業の福岡工場、旧東北工場の敷地、日本トレクスの音羽事業所を利用して太陽光発電を行っています。2018年度からはバイオガス発電施設の製造販売も行い、脱炭素社会の実現に向けた再生可能エネルギー発電の促進に貢献しています。

太陽光発電実績
4,654,154kWh（3カ所合計 3,797KW規模）

株式会社エフ・イ・テック
大阪サービスセンター　センター長　**田上 知**さん

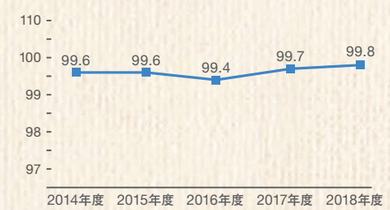
当センターは2018年12月にISO14001の認証を取得しました。取得にあたり、まず環境関連の法令を一から見直し、事務所・工場内での5S活動に取り組みました。さらに、本来業務の中でどう環境改善すべきかをみんなで検討しました。その結果、職場は随分きれいになりました。来客の方からもお褒めの言葉をいただくようになり、従業員も気持ちよく効率的な仕事ができるようになりました。今ではみんな自発的に5Sに取り組んでいます。
5S以外では、特に生産性の向上と環境保全を結びつけて日々活動するようになりました。今回確立したマネジメントシステムをもとに、さらに高効率・省エネ・省資源化をすすめ、安全で快適な職場環境の実現と環境負荷の低い工場運営に取り組んでまいります。

※以下の事業所においてISO14001の認証を取得しています。
極東開発工業：本社（環境事業部を含む）、横浜工場、名古屋工場、三木工場、福岡工場／
日本トレクス：本社、音羽事業所／他関係会社：極東開発パーキング、エフ・イ・テック 大阪サービスセンター

○循環型社会に向けて

総廃棄物量 極東開発工業単体（単位：t）

リサイクル率 極東開発工業単体（単位：%）



当社グループでは事業活動で発生する廃棄物削減とリサイクル率向上に努めています。環境事業においては、リサイクル施設の建設と破砕機などの関連設備の製造販売及びメンテナンスなどにより、循環型社会の実現に貢献しています。

廃棄物のリサイクル

当社グループでは90%以上のリサイクル率を実現しています。
今後はプラスチックごみなどの廃棄物の総量削減に向けた取り組みをすすめていきます。

製品における3Rの推進

寿命を迎えた製品がそのまま廃棄処理されることがないよう、製品の3R（リデュース・リユース・リサイクル）をすすめています。
設計段階において、部材の重量軽減や再生品由来の材料を使用するなど3Rに関する独自の評価基準を設定しています。
また、ホームページ上には製品の解体マニュアルを掲載し、解体業者が安全に部品をリサイクルできるような体制を整備しています。

株式会社モリプラント
代表取締役社長 **中﨑 幸男**さん（右）
技術部課長 **野崎 成年**さん（左）

モリプラントでは、畜産汚水の浄化処理技術の開発に取り組んでいます。畜産汚水には様々な水質汚濁物質が含まれており、未処理のまま、河川や湖沼などの公共水域に放流すると、著しい水質汚染を引き起こし、生態系を損なうなどの深刻な環境影響を及ぼしてしまうおそれがあります。
モリプラントは、この問題を解決するために家畜のふん尿を処理し、処理水を河川に放流できるレベルにまで浄化、汚水中に含まれる固形分は処理の過程で取り除いて、性状を調製し、良質な堆肥原料として分離回収できるプラント技術を提供しています。
今後も環境負荷を可能な限り低減できるような、廃棄物の処理・有効利用をするための研究と技術開発をすすめ、循環型社会の実現に貢献していきます。

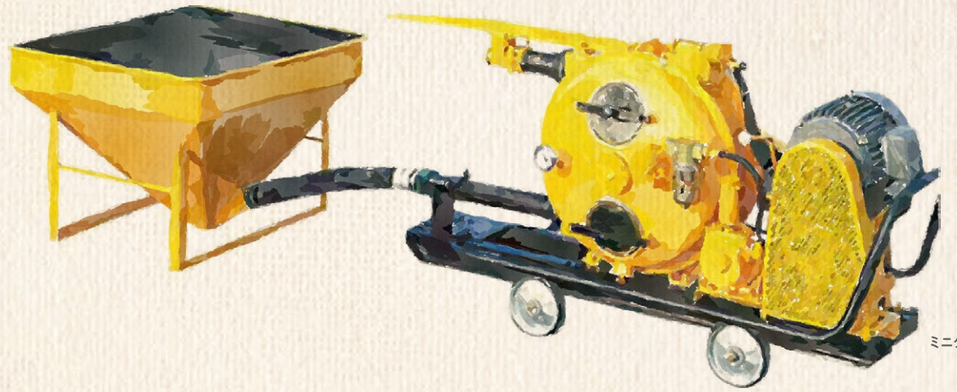
5 SOCIETY COMMUNITY

— 地域社会とともに —

5

SOCIETY COMMUNITY

— 地域社会とともに —



ミニクリート®

○ 地域の課題解決

当社グループの製品やインフラなどを活用し、国内外の地域課題解決に取り組んでいます。

日本政府のキューバ援助プロジェクトとしてこの仕事に携わりました。ごみ問題が深刻なこの街はカリブ海最大の都市であるのと同時に観光都市でもあります。ハバナの衛生環境を整備支援することは、大げさかもしれませんが、カリブ海の景観や生物多様性を守ることにもつながります。

極東開発工業株式会社　三木工場第一設計課
奥村 正和さん

納入時の様子（右から3番目：奥村さん）

オープン当日の様子

キューバへのごみ収集車提供

キューバの首都ハバナ市ではごみ収集車の数が慢性的に不足した状態にあり、保有する車両は整備や修理も十分にされていないにも関わらず、24時間稼働に近い過酷な条件下で使用されています。
2019年にハバナ市は創設500周年を迎え、日本政府はこの大きな節目に合わせて資金協力を行うことを決めました。
このプロジェクトの一環として、極東開発工業は計100台のごみ収集車をハバナ市に納入し、2019年4月の納車式典を経て稼働を開始しています。市内のごみを安全に回収する体制を支援し、地域の衛生環境保全に貢献しました。

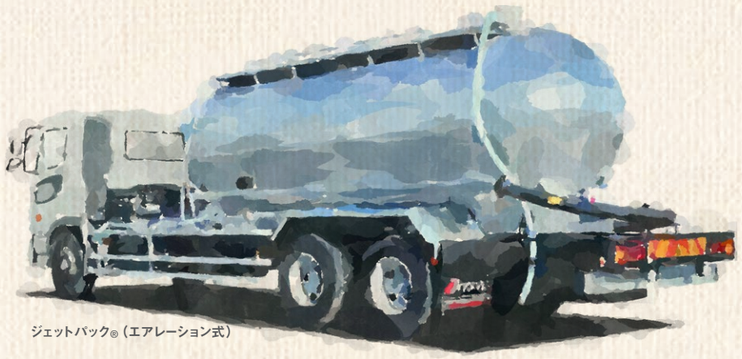
西宮市環境計画評価会議への参加

極東開発工業の本社がある西宮市には、豊かな自然と酒造りの地域文化があります。極東開発工業は市内企業の代表として「西宮市環境計画評価会議」に参加し、自然や文化を守るために市が実施している環境施策や取り組みについて評価・アドバイスを行っています。

コンビニ運営

日本トレクス本社のある名鉄伊奈駅は駅利用者が少ないため近隣に店舗が少なく、住民の日々の買い物に課題がありました。
2019年6月、日本トレクスは本社敷地内にコンビニエンスストア「ローソン」をオープンしました。店舗は日本トレクスが運営し一般のお客様にも開放しています。従業員への福利厚生としてだけでなく、暮らしやすい街づくりの観点でも貢献しています。

深あおりダンプトレーラ


ジェットバック®（エアレーション式）

○ 地域への参画

行政や地域団体などと協力し、地域のイベントや防災活動に参画しています。

地域産業振興への貢献

商工会議所や地域団体が主催するイベントに参加し、ブース出展や製品展示を通じて地域産業を広める活動に貢献しています。

防災への取り組み

工場での火災から地域社会を守ると同時に、事業継続に支障をきたさないよう、地域の自衛消防団へ参加しています。
極東開発工業の三木工場においては、地域の消防団と連携して消火活動を行う「企業連携消防団」へ加入しています。

地域との交流

地域団体や住民の方々との交流、地域への貢献の機会として、祭りやイベントなどに協賛・参画しています。
日本トレクスでは毎年11月に本社敷地を開放し、従業員と家族、近隣住民の方々を招待した「明神祭」を開催しています。

こまき産業フェスタでは、毎年新入社員がスタッフとしてイベント運営に協力しています。

明神祭の様子

日本トレクス株式会社
総務課
橋本 亜実さん

2018年度の明神祭も1,700名近くの方に来ていただき大盛況でした!
今回はたくさんの方が参加できるお祭りを目指しました。
「トレクス天才クイズ」という、会社に関する○×クイズでは、優勝者に「トレクス博士」の称号と豪華景品を日本トレクスの中島社長から手渡しさせていただきました。
次年度以降も恒例のイベントとなりそうなので、「トレクス博士」がもっと増えることを期待したいです。
ステージのバンド演奏や模擬店のゲームなども、終了間際まで行列が絶えないほど大変盛り上がり、たくさんの来場者の方の笑顔が見られるお祭りとなりました。

スワップボデー

○ 次世代の育成

地域住民の方々や学生などに当社グループや製品についての理解を深めていただくために、工場見学の受け入れやイベントへの製品出展などを行っています。

東条湖おもちゃ王国にて開催された
「はたらくくるま大集合! in かとう」の様子

工場見学会

ものづくりへの関心と地域産業への理解を深めてもらうことを目的に、地域の小学生や親子、従業員の家族などを対象に工場見学会を開催しています。
極東開発工業の横浜工場では毎年、大和市内の小学5年生の社会科見学プログラムとして工場見学会を実施しています。また2018年度からは、夏休みに地域住民の方々を対象とした親子工場見学会も実施しています。

工場見学会参加人数 1,477人

イベントへの製品出展

当社グループの製品を地域団体等主催のイベントに出展しています。地域の子どもたちに実際に乗車や積み込み操作などを体験してもらうことで、楽しみながら「はたらく自動車」の社会における役割を理解してもらう機会としています。

2018年10月に発売された日本トレクス製品「コンテナセミトレーラ 40ft 3軸 ／ ONE ジャパン」のプラモデル

製品プラモデル

青島文化教材社協力のもと、当社グループの主力製品をプラモデルとして一般販売し、製品のPRをすると同時に文化・教育の分野に貢献しています。

ホームページコンテンツ「はたらく自動車大研究」

子ども向けコンテンツ

ホームページや冊子で、子どもをターゲットとしたコンテンツ「はたらく自動車」を展開しています。
当社グループの製品を視覚的にわかりやすく楽しく紹介しイラスト作品の募集なども毎年行っています。

ホームページコンテンツ「はたらく自動車大研究」
URL:http://www.kyokuto.com/hataraku/

6 CORPORATE GOVERNANCE

— コーポレートガバナンス —

○ 内部統制システム

内部統制システムを構築し、経営方針や戦略の意思決定から執行までを、法令やルールに則り、確実・スピーディー・タイムリーに実行することに努めています。

コンプライアンス

法令や社内ルールなどコンプライアンスに沿った行動を従業員がとれるよう、従業員が守るべきルールを「ビジネス行動規範」に定めています。また当社グループの全従業員を対象に、社内ネットワーク上で「コンプライアンス教育」を実施しています。

社外取締役メッセージ

堅実かつ成長し続ける企業体質を目指します。

社外取締役　木戸 洋二

極東開発グループは特装車事業、環境事業、不動産賃貸等事業など社会インフラを下支えする事業を展開しており、これらの事業活動を通じてSDGsの様々な目標実現に向けて貢献するとともにESGの視点も強化しながら、様々なステークホルダーの期待に応える努力を続けています。
その経営・運営姿勢は堅実そのものでありますが、一方で蓄積された技術ノウハウや知見に基づき新しい技術開発や設備投資にも力を注ぎ、数々の新製品を生み出しています。またその根源である人材の育成にも注力し、職場環境や安全性の確保も重点課題として取り組んでおり、これらの総合力の結果として生産性の向上と利益体質の強化を図り、「成長サイクルの確立」を目指しています。
また、取締役会では中期経営計画などの経営戦略、投資案件、M&A、人材育成、安全対策など様々な経営課題が取り上げられます。オープンな雰囲気の中、全員が自由闊達に意見を述べ合い、深く議論を重ねています。議題によっては長時間に及ぶこともありますが、結果として公平・公正な意思決定と透明性のある情報開示につながっていると思います。
私は極東開発グループのような製造業とは違った、電鉄会社の経営や公益財団法人の理事長といった経歴を持っています。その経験を活かし、異なる視点からの意見や指摘を行うことにより、ESG視点を深めたより一層の企業価値向上につなげていくことが私の責務であると考えています。また、新たに発足した任意の「報酬委員会」の委員長として、経営陣に新たな挑戦を促すような報酬制度の検討もすすめていきたいと考えています。

コーポレートガバナンスを充実させ、企業価値の向上につなげます。

社外取締役　道上 明

私は法律の専門家（弁護士）として独立社外取締役の職責をいただき、極東開発グループの経営の監督を行っています。
社外取締役の役割は、ステークホルダーの意見を経営に反映させ、また一般株主の利益を保護するため企業価値を向上させ、いわゆる経営から独立した立場から取締役の職務執行を監視することにあると考えます。とりわけ弁護士としては経営判断の原則、内部統制、取締役の監視義務などの重要な法概念を理解しつつ、その職務を全うしたいと考えています。
そのような活動の場として、取締役会は重要な場であり、これが有効に機能しないと社外役員を設置した意味がないといっても過言ではないと思われます。
取締役会の議題は厳選され、かつ社外取締役に対してはあらかじめ事務局からその内容の説明があります。その上で取締役会が開催され、社外役員を含めて自由闊達に議論ができるようになっています。社外・社内の役員を問わず、平等に議論を戦わすことができ、有益な判断ができていると考えます。
極東開発グループの経営・運営は従来から堅実なものであり、取締役会においてもこのような面がよく表れています。私はそのような中においても法律的知識・経験を背景に、これからも社外という立場から会社に自由に意見を述べることができるようにしたいと考えています。
このことがコーポレートガバナンスの実績につながり、ひいては企業価値の向上につながるものと確信しています。

7

FINANCIAL INFORMATION

FINANCIAL INFORMATION

— 財務情報 —

ダイレクトミックス®

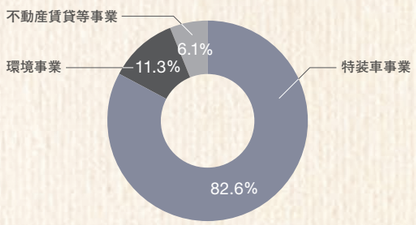
ホースカーリフト&ラダーリフト

小口配送ローリ

売上高 連結（単位：百万円）

経常利益 連結（単位：百万円）

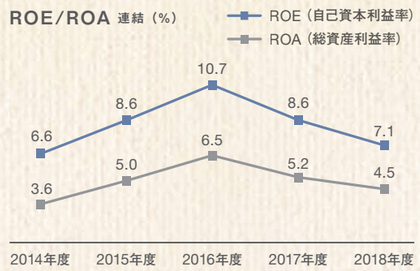
セグメント別売上構成比 連結



親会社株主に帰属する当期純利益 連結（単位：百万円）

営業利益 連結（単位：百万円）

ROE/ROA 連結（%）



関係会社情報

特装車事業

国内拠点

日本トレクス株式会社
特装車の製造、販売、修理及び部品販売

株式会社エフ・イ・テック
特装車の修理及び部品販売

株式会社 FE-ONE
中古トラックの販売

振興自動車株式会社
特装車の製造、販売、修理及び部品販売

北陸重機工業株式会社
鉄道車両・特装車の製造、販売、修理、及び部品販売

井上自動車工業株式会社
特装車の修理及び部品販売

海外拠点

極東特装車貿易（上海）有限公司（中国）
特装車の部品調達

極東開発（昆山）機械有限公司（中国）
特装車の製造、販売、修理及び部品販売

MITHRA KYOKUTO SPECIAL PURPOSE VEHICLE COMPANY PRIVATE LIMITED（インド）
特装車の製造、販売、修理及び部品販売

PT. Kyokuto Indomobil Manufacturing Indonesia（インドネシア）
特装車の製造

PT. Kyokuto Indomobil Distributor Indonesia（インドネシア）
特装車の販売

環境事業

極東サービスエンジニアリング株式会社
環境整備機器及び施設の修理、運転

極東サービスエンジニアリング北海道株式会社
環境整備機器及び施設の修理、運転

株式会社モリプラント
環境設備プラントの設計及び施工、メンテナンス

不動産賃貸等事業（パーキング事業他）

極東開発パーキング株式会社
立体駐車装置の製造、販売及び修理、駐車場の経営（コインパーキング）

株式会社エフ・イ・イ
損害保険代理業

パワーゲート® G型

KYOKUTO

5階建コインパーキング（P.ZONE®）

この冊子に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

〒663-8545 兵庫県西宮市甲子園口6丁目1番45号
極東開発工業株式会社 管理本部 CSR室

TEL：0798-66-1417　URL：http://www.kyokuto.com/

社名・ロゴ等は各社の商標または登録商標です。

VEGETABLE OIL INK

FSC www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C002022